

令和6年度 帰国・外国人児童生徒等に対するきめ細かな支援事業実施における成果 (水戸市教育委員会)

【水戸市の日本語支援におけるこれまでと現状】

平成27年度から教員免許を有する嘱託員2人を配置し、令和2年度以降さらに増員して日常会話指導及び教科指導を行い、日本語指導の充実を図っている。

[外国人児童生徒について]

(1)外国人児童生徒数（令和6年度5月1日現在）]

小学生78人，中学生32人

(2) (1)のうち、日本語教育を必要とする児童生徒数

小学生46人，中学生22人

日本語指導を要する児童生徒の年次推移

令和3年度	小学校	13校	33人
	中学校	7校	15人
令和4年度	小学校	13校	36人
	中学校	6校	11人
令和5年度	小学校	17校	46人
	中学校	9校	17人
令和6年度	小学校	17校	46人
	中学校	11校	22人

[日本語指導員数]

令和3年度：3名

令和4年度：4名

令和5年度：4名

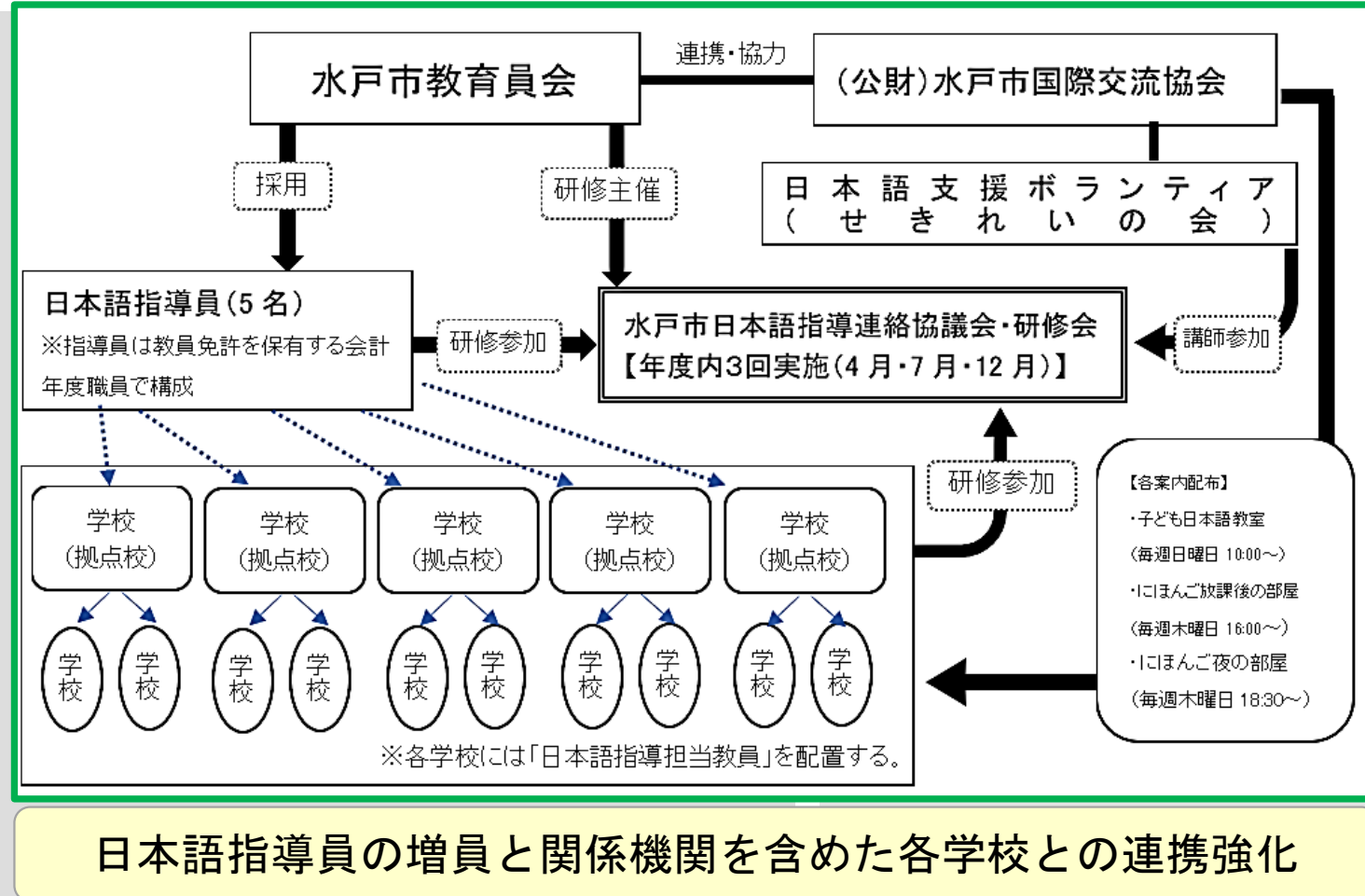
令和6年度：5名（1名増員）

【現状の課題】

・帰国・外国人児童生徒の急増や母国語の多様性により、現状の日本語指導員の数では配置が追い付かない。

→指導員1人につき、各学校の児童生徒2名ずつの指導が望ましいが、現状は1人で2名～4名の児童生徒を指導している。

・子ども一人一人に対する十分な教育の時間を確保することができず、外国人児童生徒の各教科におけるつまずきや、補充学習までに手が回らない状況。



【成果として】

・研修及び連絡協議会の充実による、各学校における帰国外国人児童生徒への支援に対する意識の高揚と、学校ごとに偏りのない平等な指導方法（指導教材）の共有及び日本語指導員の指導力の向上を図ることができた。

・指導員の増員により、一層の個に応じた指導の充実を図ることができ、子ども一人一人に対する支援の時間を増やすことができたため、日本語の指導だけでなく、各教科の授業におけるつまずきや、補充学習も少しずつ対応することができるようになった。